

長崎の林業

小曾根星堂書



新城しゃくなげ苑（吉崎市勝本町・例年3月下旬より開花）

2

目次

● 林政だより	スギ・ヒノキ特定母樹の推進 ～温暖化対策と持続的な林業経営の実現～……………2～3
● 特集記事	地元の木材の循環と五感で楽しむ木育の架け橋に チェーンソーアート 尾崎 健太郎（おざきけんたろう）さん……………4～5
● 林業普及だより	諫早農業高校生が林業を見て聞いて体験しました！……………6
● 地方だより・対馬	スマートロギング（採材・造材）研修開催……………7
● 地方だより・壱岐	新城しゃくなげ苑……………8
● 林業団体情報	松浦市ウッドスタート宣言（木育しました🌲） ～県産ヒノキでブックスタンド作り、移動おもちゃ箱～…9
● センターだより	植栽技術を考える……………10
● 紹介コーナー	竹細作家 徳田幸男（とくだゆきお）さん……………11
● 長崎の山と森	山犬谷（やまいぬだに）200年保存林（諫早市）……………12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。



2022 No.797

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

スギ・ヒノキ特定母樹の推進 ～温暖化対策と持続的な林業経営の実現～

特定母樹とは

特定母樹は、昭和29年に開始された林木育種事業により長い年月をかけて開発された育種系統で、現在、全国でスギ231品種、ヒノキ85品種、九州ではスギ39品種、ヒノキ1品種が指定されています。

開発の過程ですが、図1は、縦軸を成長特性、横軸を花粉飛散量とした育種品種の系統分類のイメージです。まず、戦後の木材不足を解消するため、成長に優れた「①精英樹」が全国の森林から選抜されました。いわば各地域の代表選手です。選抜後、採種園等の造成と苗木生産が行われ、各地に植林されました。この精英樹の第2世代の成長や形質を調査するため検定林が設定され、30年以上の調査が継続されました。

この調査により精英樹から「②第2世代精英樹」が選抜され、更に、「成長が通常の1.5倍以上」「通直に伸び、材質が強い」等の基準に基づき「③エリートツリー」が選抜されました。

また、「①精英樹」「③エリートツリー」から成長や材質等がエリートツリーの基準以上で、かつ花粉の飛散量が通常の半分以下の品種を農林水産大臣が「④特定母樹」に指定し、普及・推進しています。特定母樹はエリート中のエリートで、写真1のとおり、植栽後4年で6mと通常の2倍から3倍に達する品種もあります。

なお、精英樹の中からは花粉飛散量が通常の20%以下の「①-1低花粉」品種や1%以下の「①-2少花粉」品種も選抜され、本県でも令和2年度までに採種園・採穂園の整備を実施しました。

※植栽後4年で樹高6mに成長 →



写真1 特定母樹
(林木育種センターHPより)

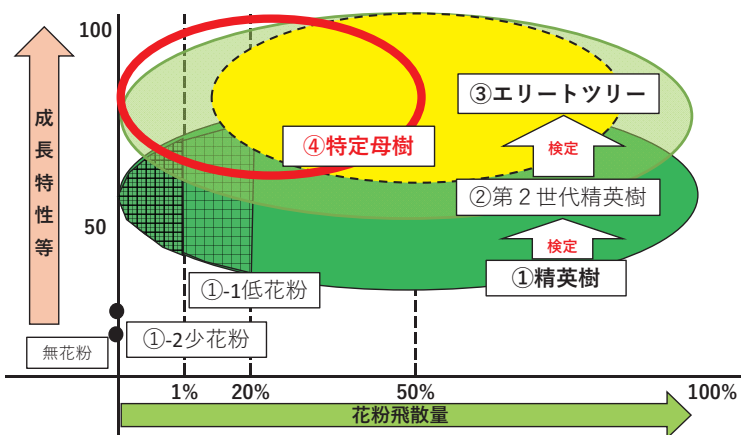


図1 スギ・ヒノキ育種系統の分類イメージ

地球温暖化対策

平成20年に気候変動に関する国際的な枠組条約である京都議定書の二酸化炭素の森林吸収量目標を達成するため、「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」（以下、間伐等特措法）が制定され、間伐等の森林整備により森林吸収源の面的な拡大が図られました。また、成長に優れた特定母樹は二酸化炭素を多く吸収し材内に固定できるため、平成25年の間伐等特措法の改正・延長により、「特定母樹の増殖」が追加され採種園・採穂園の造成が推進され、将来的な森林吸収源の強化を図る基盤的な整備が実施されました。

更に、令和3年の改正・延長で、人工林の高齢級化により森林吸収量が減少傾向にあることから、主伐・再造林を推進し、再造林には増殖した特定母樹を活用し、森林吸収源の強化を図ることとされました。また、令和12年度までの措置期間に、林業用苗木の3割を特定母樹とするとの目標が示されています。

長崎県の特別母樹推進方針

本県も高齢級化した人工林の主伐・再造林を推進することとし、令和12年度に年間200haを目標としています。この時、必要な苗木は44万本、うちスギ・ヒノキの苗木は40万本と見込まれます。

今回の間伐等特措法の改正・延長に伴い、本県も特定母樹の増殖方針を見直し、母樹本数を、現状のスギ採穂園635本に加えて、ヒノキ採種園147本、ヒノキ採穂園600本を追加して整備し、この母樹から令和12年度までに特定母樹の苗木をスギ6万本、ヒノキ8万本、合せて14万本を生産することを目

標としています。これは、令和12年度に必要なスギ・ヒノキの苗木本数40万本の35%に当たります。

持続的林業経営の実現に向けて

成長に優れた特定母樹を再造林に活用することで、下刈回数の縮減や主伐までの収穫期間の短縮等の低コストが期待されます。また、近年開発されたコンテナ苗（写真2、根巻きを防止した根鉢付きで出荷する苗木）は、根付きが良好で、1年を通して植栽でき、「皆伐・植栽一貫作業」や低密度植栽等の低コスト化が可能であるため、特定母樹のコンテナ苗を活用し、更なる低コストを図ることで持続的な林業経営の実現が期待されます。



写真2 ヒノキのコンテナ苗

併せて、本県では近年多発する豪雨等による山地災害への対応として、環境と防災に配慮した主伐を推進し、再造林には特定母樹、少花粉品種及び広葉樹等の早生樹などを植栽し、多様な森林づくりを推進することとしています。

（森林整備室 森林整備班）

【特集記事】

地元の木材の循環と五感で楽しむ木育の架け橋に



佐世保市 チェーンソーアート 尾崎 健太郎さん

右から：^{おざき}尾崎 ^{けんたろう}健太郎さん、^{しん}信くん、^{はな}花ちゃん、^{めい}芽ちゃん、^{めぐみ}奥様の恵さん

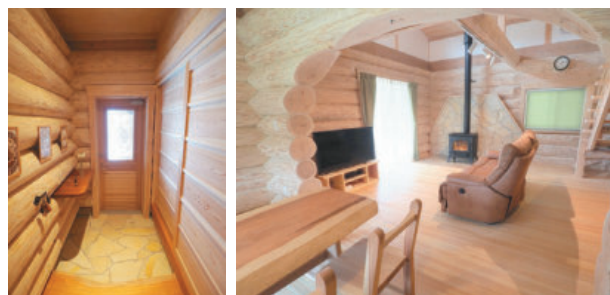
現在県内で捕獲された有害鳥獣はほとんどが焼却処分されています。佐世保市江迎町でも被害防除のため地元猟友会が駆除を請負ってきましたが、作物被害は年々拡大していました。そこで平成13年に新たな試みとして美味しいイノシシ肉を特産品として販売する取組が始まりました。猟友会有志が中心となり町の活性化と同時に、作物被害を軽減させることを目的とした県内初のイノシシ肉加工販売所「ヘルシー BOAR」を設立。平成27年にはふるさと納税返礼品で大人気となり、今では東京や大阪などの飲食店との取引も行っています。

今回はこの自然豊かな江迎町で、念願の木に囲まれた暮らしの中で楽しいアートを生み出す尾崎健太郎さんに話を伺いました。

憧れの「木の家」での暮らし

山の麓に建つひと際目を引く一軒のログハウス。こちらにお住いの尾崎さん、実は中学校の数学教諭です。大学卒業後、教員の道へ

と進んだ尾崎さんに突然運命の出会いが訪れました。知人を通じログハウスでの生活に初めて触れたのです。以前は全く興味がなかった「木の家」。自然の木々の息遣いが聞こえてきそうなぬくもりと安らぎ、こだわりが詰まったログハウスに一目惚れし、いつか自分も住みたいと考えるようになりました。専門誌で情報収集し県内外10数か所のログハウスを見学、長い時間をかけ尾崎さんの理想の実現に選んだのが大村市にある建築会社。国産無垢材のみを使い、日本伝統の木組みで作るログハウスは構想から丸3年の年月をかけ完成しました。



(左) 内玄関 (右) 薪ストーブ完備のリビング

チェーンソーアートとの出会い

木に魅了された尾崎さんは、ある時ログハウス専門誌の中で「木の芸術」を眼にしました。1本の木から唯一無二の作品を生み出すチェーンソーアートです。その美しい木の芸術に触れてみたくなった尾崎さん。県内にも体験出来る場があると知り、諫早市在住のチェーンソーアート作家、嶋田克海^{しまだかつみ}さんの元を訪ねました。休みの度に通り技術を習得、尾崎さんの腕の良さを見込んだ嶋田さんから熱心な指導を受けました。

1本の丸太から生まれる自然の美

作品の制作に使う木材は地元産の杉です。乾燥した木は割れやすいため、水分の多い伐りたての生木が最適です。杉は赤身と白い部分がはっきりしており、色合いにより立体的な大変美しい仕上がりになります。



(左上より) 制作工程 (右下) これまでの作品

丸太を削る際は中に隠れている動物を傷つけないよう丁寧に作業を進めます。作品が割れるのを防ぐために裏側に「背割れ」という切込を入れ、細かい部分はバッテリー、大

きい部分はエンジンと削る場所で4種類のチェーンソーを使い分けます。一番繊細な目はグラインダーを使っています。途中で節が現れる事もあり、どのように生かすか考えるのもまた面白い時間だそう。去年は地元の酒蔵からのお声掛けで、蔵開きの際にお客様の前で実演も行いました。作品を通じ木に触れる楽しさと自然の美を知って貰えたらと話されました。

「生きた木育」の機会を子ども達に



(左) スタンプアート 伐採予定だった槇の木
(右) 地元産楠の木の一枚板で制作した作品

左の作品は前任校の校庭にあった槇の木が腐り安全面から伐採する事になった際、どうせ伐るならと地面に生えたままの木を削る「スタンプアート」に挑戦したものです。作品を一目見た在校生は大変喜んだそう。その経験からモノ創りの楽しさや木材の利用とその可能性など、子ども達が実際に見て触って考える木育のきっかけ作りにも取組みたいと考えるようになりました。

右の作品は現在、地元の保育園や学校、カフェなどで訪れる人の目を楽しませる存在となっっています。ログハウスへの憧れから始まった木材に対する興味関心は、地元の木材の流通や森の資源活用などを考えるきっかけとなりました。またチェーンソーアートを通し地域の人々との繋がりも広がっています。これらの経験と今後の制作から学ぶ成功や失敗を伝える事で、未来を担う子ども達へ還元していきたいと話す尾崎さん。これからの制作活動が楽しみです。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

諫早農業高校生が林業を見て聞いて体験しました！



(株)伊万里木材市場 貯木場 (2年生)



胸高直径測定方法を指導する普及員

若手林業技術者の確保に繋げようと、この度、長崎県立諫早農業高校環境創造科の1、2年生を対象に2つの研修会が開催されました。本研修会は今年度で9年目になります。

「イングヤーダ」の操縦体験と森林調査等を体験しました。生徒たちは高性能林業機械の操作に高い関心を寄せ、将来の林業就職希望者の確保につながる研修となりました。

(研修主催者：(一社)長崎県林業協会)

●見て聞く！

2年生は令和3年11月22日に佐賀県伊万里市の(株)伊万里木材市場と中国木材(株)で視察研修を行いました。(株)伊万里木材市場では、長崎県産材を多く取り扱っており、貯木場で丸太に実際に触れながら、講師の説明を熱心に聞いていました。50年生のスギ丸太1本の価格が8,000円程度との説明を受け、現在はウッドショックで多少値段は上がっているものの、安いと感じた生徒もいました。研修後アンケートでは、「将来、林業に関わる仕事をしたいと思いませんか？」との問いに対し、半数以上の生徒からある程度関心があると回答が得られました。

(研修主催者：県林業研究グループ連絡協議会)

●これから

長崎県の林業の持続・発展のためには、新規就業者の確保・育成が重要になります。令和2年度は長崎南部森林組合に諫早農業高校から2名が入組されています。今後も普及員として、林業の楽しさや魅力を体験できる機会を提供していきたいと思えます。

●体験する！

1年生は令和3年12月10日諫早市白木峰町の東長田生産森林組合所有林にて、現地研修会に参加しました。長崎南部森林組合諫早支所の現場技術者の指導のもと、高性能林業機械である「フォワード」「プロセッサ」「ス



研修会に参加した生徒の皆さん (1年生)

(県央振興局 林業課)

地方だより

スマートロギング（採材・造材）研修開催



研修会参加者による記念撮影

12月8日（水）に採材技術の向上を目的として研修会が開催されました。（株）伊万里木材市場、長崎県森林組合連合会の方を講師に招き、島内林業事業者等63名が参加しました。

まず採材の考え方やコロナ禍の木材流通について講義がありました。市況や流通の現状に加え、今後の木の成長も意識した採材パターンと、その販売シミュレーションによる売上額比較により、採材の重要性について理解を深めることができました。



長崎県森林組合連合会 小川次長より講義

その後現場にて、立木1本から最も収益の高い採材方法について検討しました。その場でプロセッサ造材し、オペレーターの考え方と、その材が市場でどのように判断されるのか、照らし合わせました。オペレーターがあえて切り落とした部分も、採材方法を変えることで市場での取扱が可能となることがわかりました。また、規格の判断基準は曲がりの程度だけでなく、傷やシミ等の欠点によって規格が1ランク下がる場合があります。その判断のポイントについて実例を挙げながら、ここまではOK これ以上はNGと教えていただ

くことで、事業者としてこれまで曖昧だった規格上の許容範囲について、市場と現場の細かな認識のズレを解消することができました。「こう採材すれば、より収益が上がる」という市場目線の考え方を教えていただき、有利な採材の理解へ繋がりました。



採材シミュレーション



欠点材の判断ポイント説明

今回の研修を通して、市場に合わせて、現場の採材規格の認識を統一することができました。さらに市や国、林業公社など発注者側としても採材方法について理解し、林産現場管理業務の参考となりました。今後さらなる対馬産材の品質向上、そして収益向上に向け、取り組んでいきます。

（対馬振興局 林業課）

地方だより

新城しゃくなげ苑

はじめに

壱岐市勝本町品川^{しながわしょうぞう}照三さん（93歳）が所有されている山に、2001年からシャクナゲの苗木をコツコツと植え続けて造成された新城しゃくなげ苑があります。

毎年3月下旬から淡いピンク色などに色づいた花が咲き出し5月下旬まで訪れた人を楽しませています。見頃は、4月中旬です。

今回は、本苑についてご紹介します。



シャクナゲとの出会い

品川さんが長崎市内で仕事をされていた時に、花の美しさに心が癒され、鉢植えを買ったのが始まりです。鉢植えで楽しんでいましたが直ぐに枯れてしまうので山へ植えることにしました。

苑について

普段は個人で管理していますが、花が咲く時期などは知人が清掃を手伝って下さるそうです。

2001年開園時は、10本の苗木から始め、植える場所を考えながら、植えては枯れての繰り返しで徐々に本数を増やし、これまで600本を植え続けてきました。

苑内の斜面上部には、細葉（静岡地方の原産）とシミアルム（外国種、暑さに強い）の交配種、斜面中部には、日本原産のツクシシャ

クナゲ系統315本を植え、斜面下部には日本種と外国種や、外国種と外国種など様々な交配種が植えてあります。苑内は遊歩道が設けてあり、間近で花を觀賞できるよう整備されてあります。

4年程前が1番きれいに苑全体に花を咲かせていましたが、元々標高が高い場所で自生する植物で、また、毎年のように炎暑が続いたことなどから毎年何十本と枯れるようになりました。この状況を見た知人が、日よけのため寒冷紗^{かんれいしや}で大きな日陰を作ってくれました。ほかに、ヤマザクラやクヌギの苗木を植え、夏場の炎暑を少しでも防ごうとされています。

また、枯れた場所には、自分で実生苗や挿し木から苗木を育てています。本当は温度や湿度が管理しやすいハウスの方が良く育ちますが、木漏れ日程度の場所で自然の力を借りて育てている苗木を植えています。

終わりに

「今回までは一般公開するようにはしていませんが、シャクナゲが枯れていくのを見るのが辛いし自分も年を取って管理するのも大変になった。」と話されていました。ぜひ、この機会に同苑へ足を運び花の美しさをお楽しみ下さい。



（壱岐振興局 農林整備課）

林業団体情報

松浦市ウッドスタート宣言（木育しました🌲） ～ 県産ヒノキでブックスタンド作り、移動おもちゃ箱～

はじめに

松浦市では、令和元年度から木育推進の取組として、県内自治体では初めてウッドスタート宣言を行っています。

子供のころから森林や木製品に親しむ木育の取組として、今年度は、「森林・木工教室」と「移動おもちゃ箱」を実施しました。この2つの取組についてご紹介します。

森林・木工教室開催！

令和3年11月6日に、松浦市立図書館で森林・木工教室を開催しました。

森林教室では、長崎北部森林組合の方から、「市の山の面積はどれくらい」「スギとヒノキの特徴」「木を大きく良い木に育てるには」「山の役割」などのお話を聞いたり、木の苗や丸太の実物を、見たり触ったりすることができ、山や木材について知る機会となりました。図書館からは、木と本のお話を聞き、身の回りには木を使って作ったものがたくさんあることを知っていただくことができました。



森林教室

森林教室の最後には、山の機能についてのクイズがあり、積極的に手が挙がりました。森林教室で使ったスギとヒノキの丸太を配布し、とても喜ばれていました。「表面を整えて、おうちのインテリアに活用します」という参加者もいらっしゃいました。

木工教室では、長崎県産ヒノキを使ってブックスタンドを作りました。パーツからヒノキのいい香りがして、苦戦しながらも親子で楽しく協力して組み立てました。念入りに表面を整え、絵を描き、オリジナルの1作が完成しました。



木工教室

移動おもちゃ箱出発！

令和3年11月18日～12月28日まで、木製おもちゃを市内15の保育園等へ運ぶ「移動おもちゃ箱」を実施しました。

令和2年に開催した「木育キャラバン」に続き、木製おもちゃを使ったイベントは2回目で、新型コロナ対策として、方法を変えて実施しました。

木製のおもちゃは、同じものでも微妙な、木目や色の違いがあります。

子どもたちは、おもちゃを手に取り興味津々。並べたり、積み上げたりして楽しく遊んでいました。



移動おもちゃ箱



おもちゃで遊ぶ子ども

移動おもちゃ箱は、初めての試みでしたが、たくさんのおもちゃに木に触れる機会を提供できました。

これらの活動を通じて、森林・自然を大切に考え行動できる子供たちを継続して育成していくため、今後も木育推進に取り組んでいきたいと思っています。

（松浦市 農林課、子育て・こども課）

植栽技術を考える

はじめに

森林資源が成熟し、これからは資源の活用と皆伐再造林によるスギ・ヒノキの若返りが推進されていくこととなります。

これからは植林の機会が増えていくことになるでしょう。しかし、ここ数年、植栽苗木が枯れたという相談が持ち込まれることがいくつかあります。すべてコンテナかポット苗で大きさも様々です。2～4月にかけて植栽されたものですが、活着した痕跡がなく、育苗時の地際より5～15cm深く植えられていることが共通しているようでした。苗木が悪かったのか、植えた場所が悪くて根腐れしたのかと、相談される方はほとんどがそのように考えているようです。

深植え試験を行う

相談で持ち込まれた枯損苗は、共通して深植えの状態にある点に着目して、センター内で試験を行うことにしました。



写真1 ヒノキの深植え試験
(右列：15cm 深植え)

ヒノキコンテナ苗として育苗し一旦畑に植え一年間保育し、路地に馴化^{じゅんか}させた3年生苗35本の苗のうち17本を根元の地際の高さで植栽し、18本は根元の地際より15cm深く植栽してみました(写真1)。植栽したのは2021年4月7日です。

試験の結果

7月1日に状況を確認したところ、左列の元の地際の高さで植栽した17本に異常はなく、右列の深植えした18本では6本が正常で、12本が枯損していました(写真2)。



写真2 ヒノキの枯損状況

植栽技術を考える

一度路地に馴化させた苗でも明瞭に深植えの弊害を見ることができました。コンテナ苗は空気に触れた状態で育苗されるので、突然深く植えられると言わば窒息状態となりやすく、枯死するのではないかと考えられます。根鉢※が小さいので安定させようと深く丁寧に植えたいと思いますが、植え方にも注意が必要です。特に、ヒノキ・マツの深植えには注意して下さい。

※根鉢：根と根のまわりについている土の塊

(長崎県農林技術開発センター)

紹介コーナー

竹細作家 徳田幸夫（とくだゆきお）さん



ひとつひとつ丁寧に編まれた徳田さんの竹細工

松浦市福島町喜内瀬地区、標高 170 m 程の白岳中腹の白山と呼ばれる地域で、長年に渡り竹細工を続ける方がいらっしやいます。徳田幸夫さんです。御年 93 歳の徳田さんは今でも毎日制作を続ける現役の竹細作家。戦後間もない頃、県から派遣された竹細工職人が福島町を訪れ、町の人達に指導しました。元々物作りが好きだった当時 20 歳の徳田さんも父と共に指導を受け、その後、真珠養殖場の工場長を務めながら制作を重ねたそう。技術向上を目指し、竹細工の本場大分県耶馬溪やまげいに通い独自のデザインを構築しました。地元福島町のお祭りや市内の道の駅、直売所などに根強いファンを持つ徳田さんの竹

細工。現在制作しているのは主に竹籠類で福島町の「海の駅とれたて福の島」で購入出来ます。365 日 1 日も欠かさず 19 時過ぎまで作業場の定位置に座り、ひとつひとつ編み出された竹細工は機能的かつ遊び心が詰まっています。両手と同じように器用に動く足の指を使い黙々と進める制作の過程はまさに職人技の宝庫です。遠く北海道や福岡から大量購入に訪れる人もいるという作品たち。日々の大切な道具として、また暮らしに溶け込むインテリアとして彩を添える存在となることでしょう。 (NPO 法人地域循環研究所)



左：制作の様子 中央・右：朱染の籠と里芋洗籠

竹細作家 徳田 幸夫

住所：長崎県松浦市福島町喜内瀬免 967
電話：090-9728-7981

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和4年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	27,800	普通	多い	多い
	16~18	小曲り	26,300	普通	多い	多い
	20~22	直	24,700	普通	多い	多い
	20~22	小曲り	23,900	普通	多い	多い
	24~28	直・小曲り	23,000	少ない	多い	多い

【スギ】

令和4年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	16,300	普通	多い	多い
	16~22	小曲り	14,500	普通	多い	多い
	24~28	直	16,000	普通	多い	多い
	24~28	小曲り	14,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山と森

やまいぬだに

山犬谷 200 年保存林（諫早市）



高来町平山地区「山犬谷 200 年保存林」を南側多良岳グリーンロードから撮影

諫早市高来町に広がる「山犬谷 200 年保存林」は 100 年を超える歴史と広さ 5 ヘクタールにおよぶ壮大なスケールのスギ林です。

当地区、小江林業の歴史を紐解くと明治の中後期に遡り、青年らによる「小江村植林事業計画」に基づく植林が始まります。その後、大正元年に金泉寺の西、仏の辻の東斜面一帯、山犬谷で一大植林が行われ、その一部 5 町（5 ha）が現在の「山犬谷 200 年保存林」になったそうです。

諫早市白木峰高原から多良岳グリーンロードを山茶花高原に向かい、シャクナゲ高原から更に東に向かうと「山犬谷 200 年保存林」の案内板が目にとまり、よく整備されたスギ林が左手（北側）の間近に見られます。林内は、小径木が除伐され、下草や枝条とともに集積整理され林床まで陽ざしが差し込んでいます。特に目につくのは、樹齢 100 年を超えるといわれている大径木です。その中でも、胸高直径が 1 m を超えるものがありその景観は圧巻です。

このスギ林は、「高来町山林協議会」が先人から受け継ぎ、後世に繋げるために守ってきたものです。長年の間には台風や大雨などの自然の災いにより整備が思うように進まず、計り知れない苦労があったものと推察されま

す。その労苦が報われるような大径木の見事なスギ林に仕上がっています。



明るく整備された林内

スギの木立に包まれる林内は山の息吹を強く感じられ、木漏れ日の中で“森林浴”を実感できる最高のヒーリング・スポットです。

（NPO 法人地域循環研究所）

長崎の林業 2月号 第797号

編集・発行 長崎県林政課

住所：長崎県長崎市尾上町3番1号

電話：095-895-2990

ファクシミリ：095-895-2596

メールアドレス：

s07090@pref.nagasaki.lg.jp